

# シリーズ 激動中国

## パリ協定後の気候変動政策

金 振

博士(法学)、(公財)地球環境戦略研究機関 気候変動とエネルギー領域  
研究マネージャー/主任研究員



### その19 2060年ネットゼロ目標 宣言の背景

#### 2060年ネットゼロ目標の宣言

2020年9月22日に開かれた国連75周年総会の一般討論演説において、習近平・中国国家主席は、「2030年より前に二酸化炭素の排出のピークを達成し(2030年目標)、2060年より前に炭素中立(ネットゼロ、2060年目標)を達成するように尽力」することを表明した。2060年目標は、世間の予測をある程度上回る宣言であったため、国内外からの大きな注目を集めた。2060年ネットゼロの目標を宣言した背景には、過去10年間の気候変動対策への取り組みの実績から、目標の達成と経済発展の両立が可能であるとの判断がある。

#### エネルギー消費量過多と想定外の再エネ導入

2060年目標の策定の背景には、経済、エネルギー、工業、交通、建築、金融などさまざまな分野の専門家による叢智の集約がある。2000年以降、中国国内のシナリオ研究は大きな進展と共に変化してきた。表は、2009年当時と2020年時点でのシナリオ研究成果の一部(エネルギー状況)を比較したものである。

2009年時点の2020年および2050年におけるエネルギー消費量の予測は、かなり野心的な低炭素強化モデルにおいても、それぞれ39億tceと50億tceだった。しかし、実際のところ、2019年における中国エネルギー消費量はすでに48億tceに達した。一方、2020年における非化石エネルギーの割合は15%となっており、予測値と実績値が

ほぼ一致する予測通りの結果が見られる。ただ、嬉しい誤算もある。風力・太陽光の導入量は合わせて1.01億kWであったが、実際は2019年時点で4.1億kWに達し、政府は2020年までにさらに4.8億kWまでに導入を拡大する決定をした。

#### 目標達成と経済の両立、鍵をにぎるのは…

2020年10月に発表された最新モデル研究によると、エネルギー消費量は2030年前後の58億tceをピークに、2050年には50tceに減少し(1.5°C目標達成前提、以下同様)、非化石エネルギーの割合は85%以上、風力・太陽光の設備容量は15億kWと予測している。

2009年シナリオ予測より実際のエネルギー消費量が30年も早く到達してしまったが、30年先の2050年まで同じ需要水準に抑えられる根拠はどこから来るのか。次号では、2060年ネットゼロ目標の宣言を裏付ける政策的な根拠を解説したい。

#### ●中国シナリオ研究成果の10年前と現在の比較

2020年エネルギー状況	2009年時点での予測 (低炭素強化モデル)	2019年実績	2020年目標
消費総量	39億tce	48億tce	50億tce
非化石エネルギー割合	15.50%	15.3%	15%
風力	1億kW	2.1億kW	2.4億kW
太陽光	158万kW	2.0億kW	2.4億kW
2050年エネルギー状況	2009年時点での予測 (低炭素強化モデル)	2020年予測 (2°Cシナリオ)	2020年予測 (1.5°Cシナリオ)
消費総量	50億tce	52tce	50tce
非化石エネルギー割合	30%前後	70%以上	85%以上
風量	4億kW	15億kW(2030年まで、風力・太陽光合わせて年間1億kW)	
太陽光	0.77億kW		

出典:「2050中国エネルギーおよび炭素排出報告書(2009年)」「中国低炭素発展戦略およびロードマッププロジェクトの成果に関する紹介(2020年)」などに基つき筆者が作成